

◎ 関西大学協賛の「大阪マラソン2023」開催

関大生ランナーやボランティア、約350人が大活躍



みんなでかける虹。

OSAKA MARATHON 2023

2月26日、今年で11回目となる「大阪マラソン2023」(大阪府・大阪市・(公財)大阪陸上競技協会主催)が開催された。“みんなでかける虹。”をスローガンに、応募により選出された約3万人のランナーが、大阪府庁前をスタート。京セラドーム、あべのハルカスなど大阪の名所を通過し、ゴールの大阪城公園を目指して駆け抜けた。当日、沿道には110万人もの人々が詰めかけ、ランナーに熱いエールを送った。

関西大学は第1回目からオフィシャルスポンサーとして大会運営に協力し、地元「大阪」の盛り上げに貢献してきた。今大会は3年ぶりに市民ランナーが復活。学生・教職員ランナー40人をはじめ、給水ボランティアとして学生ら約230人が参加。沿道では「ランナー盛上げ隊!」として、応援団による力強いパフォーマンスが大会に彩りを添えた。

また、24日、25日にはインテックス大阪で「大阪マラソンEXPO 2023」が開催され、本学ブースでは「東京2020大会表彰台レガシープロジェクト」として、本学卒業生でパラリンピックメダリスト・和田伸也さん寄贈の表彰台を使用した特設フォトスポットを設置。さらに、本大会のサブテーマ「SDGs」に基づき、廃棄野菜・廃棄衣料問題の解決を目指す商学部・横山恵子ゼミの「魔女プロジェクト」が“アップサイ

クル”トートバックや缶詰「ほんのりトリュフのエビイモポタージュ」などを販売した他、社会学部・劉雪雁ゼミが「大阪マラソンとSDGs」展を開催。SDGsにまつわる記事の展示やクイズ企画を行い、大会の意義や役割を紹介した。



▲パラリンピックメダリスト・本学卒業生の和田伸也さんから寄贈された表彰台を使用した特設フォトスポット

◀「大阪マラソンEXPO2023」の関大ブースを運営した学生たち

JOINT PROGRAM ■社会貢献・連携事業/地域連携

◎ 第27回関西大学先端科学技術シンポジウムを開催

機構研究員の1年間の研究成果を、社会、企業、産業界へ発信



1月26日～27日、第27回関西大学先端科学技術シンポジウムが開催された。

本シンポジウムは、大学や民間企業、研究所、自治体などの研究者が集まる毎年恒例の大規模な学術交流イベント。今年もオンライン形式で開催され、延べ1,200人が参加した。

今年のメインテーマは「産学官連携とビッグデータの活用」。特別講演として、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所の國澤純ワクチン・アジュバント研究センター長(兼ヘルス・メディカル連携研究センター長)が登場し、「健康社会の実現に向けた腸内環境ビッグデータの活用と社会実装への展開」をテーマに、「腸活」による健康維持・増進、疾患との関連について講演し、その後、14のセッションごとにそれぞれ講演を行った。

また、特設サイト上では未来を担う若手研究者や学生による研究ポスターを公開するなど、本学先端科学技術推進機構で展開する多彩な分野の最先端研究の成果も披露。同時開催として、関西大学・大阪医科薬科大学医工連携科学教育研究機構研究発表会と関大メディカルポリマーシンポジウムも行われ、いずれも盛会のように終了した。



国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 國澤 純 氏

◎ 経済学部・佐々木ゼミと人間健康学部・岡田ゼミが企画

堺市博物館の新ミュージアムグッズが商品化



堺市との地域連携事業「堺市(博物館)×関西大学によるミュージアムグッズの企画提案」において、経済学部の佐々木保幸ゼミと人間健康学部の岡田忠克ゼミが企画・提案した、新ミュージアムグッズが商品化された。

本プロジェクトは、世界遺産の百舌鳥・古市古墳群をはじめ多くの文化遺産を持つ堺市のシティプロモーションに寄与し、さまざまなステークホルダーに文化遺産への理解を促進することを目的に2022年1月から開始。堺市博物館による現状説明や意見交換を経て、グッズの販売方法やデザインの考え方等について、若者世代の視点から現状分析と、その分析に基づいた新グッズの企画提案を行った。



◀マスクングテープを考案した人間健康研究科の留学生



最終審査会では7件の中から2件のアイデアが選ばれ、商品化されたグッズは、堺市博物館の所蔵品をモチーフにしたマスクングテープ3種とフラットポーチ2種。2022年11月から堺市博物館ミュージアムショップにて販売されている。